
私を照らす月。

あきねこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私を照らす月。

【Nコード】

N2359B

【作者名】

あきねこ

【あらすじ】

満月の夜。私に影ができる。月に雲がかかる。今だ。私は逃げる。何から？

今日は満月だ。

街灯がなくても明るい。

私に影ができている。

月が私を照らす。

雲はときれとぎれにある。

雲のまわりが光っている。

月に雲がかかった。

月にかかっている雲のまわりは虹色に光っている。

今だ。

今行かなければ。

逃げなければ。

私は走る。

月が私を照らさないうちに。

雲。

まだ月を隠していて。

私をもっと隠していて。

薄暗い中、私は走る。

何から逃げているのか、忘れてしまいそうなくらい、狂ったように走る。

雲から月が顔をだす。

私に影ができる。

辺りが明るく照らされた。

私は木の影に隠れる。

結ばれない私と彼。

決意し、今日二人で心中することに決めた。

しかし、いざとなると死ぬのは怖い。

死んだ後なにになるのか。

死んだ後も、彼と出会えるのか。

私は怖くて逃げ出した。

満月の夜に。

彼は狂ったように追ってくる。

違う。

彼を捨てたわけじゃない。

他になにか道があるはず。

他になにか一緒になれる方法があるはず。

わかって。

わかって。

月が雲に隠れる。

辺りが暗くなる。

私は逃げる。

でも、もう疲れた。

愛している彼から逃げることに。

私は止まった。

月が顔をだした。

私に影ができる。

月が私を照らす。

彼が私を見付ける。

「見つけた。」
彼が言う。

「私、あなたのことを愛してるよ。今までも、これからも。」

そう言った私に、彼は笑って言う。

「わかってる。」

彼は私に微笑みながら手にもったオノを振り下ろす。

そして自分のノドにふりかざした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2359b/>

私を照らす月。

2010年11月21日14時22分発行